

けんてい しぜん へん
やさしい「うちなだ検定」 自然編
 かいとう かいせつ
～解答と解説～

※「うちなだ検定」は「ビジュアル内灘町史」等から出題しております

設問	解答	解説
1	3	1979年（昭和54年）、内灘町の「町の花」はハマナスに制定されました。（203P参照）
2	1	1979年（昭和54年）、内灘町の「町の木」は黒松に制定されました。（203P参照）
3	2	1979年（昭和54年）、内灘町の「町の鳥」は鷹（チュウヒ）に制定されました。（203P参照）
4	4	砂丘の減少、砂浜への自動車の乗り入れ等により、シロチドリの繁殖が脅かされており、その数は極端に減少しています。（180P参照）
5	3	これまで「内灘砂丘」は、鳥取砂丘に次ぐ大砂丘と言われてきました。しかし、近年の調査によって、青森県の「猿ヶ森砂丘」、「鳥取砂丘」に次いで、日本で三番目に大きい砂丘と言われています。
6	3	内灘町は、東西2.9Km・南北9.0Kmで、面積は20.38Km ² です。（159P参照）
7	1	海面からの平均標高はおおよそ20m、最も高い地点でも58.51mしかありません。（159P参照）
8	2	河北潟は、ガン、カモ、カモメなどの水鳥の仲間や、ワシ、タカ、ハヤブサなどが多く、県内有数の野鳥の観測地と言われています。今までに観測された種類は、250種以上となります。（181P参照）
9	2	河北潟の水は、二級河川である大野川を経由して日本海に流れています。（13P参照）
10	4	ニセアカシアの近縁でハナアカシアともいい高さは2mほど、淡い桃色がかった優美な蝶形花が集まって咲きます。



町の花 ハマナス



町の木
クロマツ



ニセアカシア

うらめん れきし へん かいとう かいせつ
 裏面は歴史編・解答と解説です

やさしい「うちなだ検定」歴史編

～解答と解説～

※「うちなだ検定」は「ビジュアル内灘町史」等から出題しております

設問	解答	解説
1	3	内灘村は、昭和37年1月に町制を施行し内灘町となり、この時の人口は7,615人でした。(11P参照)
2	2	昭和54年7月(1979年)には人口2万人を超えるにいたり、昭和55年3月31日時点で人口は20,325人でした。(203P参照)
3	2	1959年(昭和34年)に村の全域が金沢都市計画区域に組み込まれ、翌1960年長く不毛の土地と言われた砂丘に200戸の住宅団地「アカシア団地」が出来ました。(11P参照)
4	4	鶴ヶ丘は、古くからこの砂丘地を「ガメ(亀)越えの地」と呼称していたことから、亀と対にして祝い言葉として使用されている鶴の字を用いて鶴ヶ丘と命名されました。
5	2	1963年(昭和38年)国営河北潟干拓事業が発足し、23年の歳月をかけ1985年に終了、1100ヘクタールの新農地が造成されました。その結果、河北潟全体の約三分の二が干拓されたこととなります。(73P参照)
6	3	国鉄金沢駅前で手広く材木を商い「北陸の材木王」と呼ばれた平澤嘉太郎が粟崎遊園を1925年(大正14年)にオープンさせました。(41P参照)
7	2	浅野川電鉄の終点である向粟崎砂丘地に平澤嘉太郎が私財125万円を投じた一大パライスは、北陸の宝塚とうたわれました。(41P・42P参照)
8	4	粟崎遊園は、およそ6万坪、19万8千平方メートルの広大な敷地に500人収容の大劇場をはじめ、百畳敷きの大広間、大浴場、料亭、洋食堂、旅館、貸席、遊技場、動物園、野球場、スキー場などを備えていました。コドモノクニと動物園などが子どもの人気を集めました。(41P参照)
9	1	内灘砂丘に国有地があった為「米軍の試射場に」と白羽の矢が立ち、補償を条件に村は受け入れましたが、約束に反して永久使用を目指そうとする政府への反感が高まっていました。(26～29P参照)
10	1	小浜神社は、奈良時代の718年(養老2年)、北方からの外的に備えて海岸を守るため、当時の朝廷が現在のかほく市大崎に建立したのが起源です。(166P参照)



大山すべり台(粟崎遊園)



大浴場(粟崎遊園)



内灘闘争

裏面は自然編・解答と解説です